

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2016年6月調査結果-

## 調査要領

- 調査期間 2016年6月6日～24日
- 調査対象 200社
- 回答企業 110社
- 回収率 55.0%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の6月の状況を見ると業況DIは、前月より5.0ポイント回復の▲23.0。

2014年4月以来27ヶ月連続マイナス水準で推移している。

業種別では、製造業、サービス業の2業種において回復した。

※向こう3か月の先行き見通し業況DIは▲19.1と当月に比べ3.9ポイント回復を見込んでいる。

業種別でみると、製造業、卸売業、サービス業の3業種において回復が見込まれている。

## 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2016年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
業況	▲33.6	▲26.4	▲25.6	▲24.2	▲28.0	▲23.0	▲19.1
売上	▲28.4	▲22.7	▲19.2	▲20.2	▲28.3	▲21.8	▲13.5
採算	▲29.2	▲22.6	▲20.2	▲18.2	▲26.2	▲29.1	▲20.7
仕入単価	▲20.6	▲22.6	▲22.0	▲22.3	▲25.2	▲21.1	▲18.1
従業員	15.9	16.1	26.6	21.2	24.2	28.5	31.8
資金繰り	▲12.4	▲11.3	▲14.8	▲5.0	▲9.1	▲8.3	▲11.0

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2016年 1月	2月	3月	4月	4月	5月	先行き見通し 7～9月
建設	▲54.6	▲27.3	▲26.1	▲30.4	▲9.1	▲18.2	▲27.3
製造	▲14.3	▲14.2	▲23.1	▲11.5	▲16.0	▲7.7	▲3.8
卸売	▲33.3	▲40.0	▲28.0	▲25.0	▲42.1	▲42.3	▲30.8
小売	▲47.6	▲55.6	▲36.8	▲20.0	▲26.7	▲33.3	▲33.3
サービス	▲22.2	0.0	▲12.5	▲40.0	▲52.7	▲11.8	0.0

## 今月のトピックス（業界の声）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月以降の仕事が見えてこない</li> <li>・新規受注先は順調に増加しているものの、冬期間の工事受注減少から資金繰りは悪化。</li> <li>・技術者が土木・建築とも不足している</li> <li>・技術者の人材不足</li> <li>・現在の最大の課題は「人員（従業員）不足」</li> <li>・下請の多い専門業種なので、公共工事発注量減少の悪影響を受けている。そして価格競争にさらされている。公共入札の「抽選」で会社の運命、社員の人生が変わる。発注者はずっと知恵を絞ってほしい。</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上高、採算面、安定して推移している。</li> <li>・売上高は4.5月と連続して前実績を上回った。</li> <li>・参院選挙前。様子見・紙媒体のマーケットが縮小している状況では、業界全体として売上減少傾向にある。WEBサイト等へのビジネス転換も一部手がけてはいるが、紙媒体受注減のカバーまで出来ていない。縮小しているマーケットの中で同業他社との競合が激化している。</li> <li>・需要期を終え夏場の受注減少状態に入っている。恒例の6月イベントによる下期の営業活性化を進めている。</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度よりは若干だが業況は良い</li> <li>・東北復興にも材料を納入しており売上もなんとか維持し収益も前年対比微減、自社材（重仮設材・鉄板マット）を保有しながらも現状は厳しくなっている。従業員の営業職は技術者と兼ねておりなかなか新人は育成できないのが現実。</li> <li>・販売日が月により増減するため、先月のように曜日設定のある物日（ものび）は販売日数が減るだけで1日の売上のウエイトの重さが直接響いてくる。注文予約等が主流の現在は、小売需要の低迷がその後の売上に直結する。そのため低相場を長く引きずる傾向が強い。</li> <li>・売上の減少の一言につきる</li> <li>・少子高齢化が進行し、先行きがどうなるのか危機感を持っている。また、地方の自治体が受注に関して減少しています。道北が特に心配</li> <li>・6月は売上、粗利とも若干持ち直したが、今後におけるプラス材料が乏しく現状で推移すると思われる。</li> <li>・石油製品について、6月は値上がりしたものの、当面は同水準で推移するものと思われる。</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旭川全体の景気の悪さ。それによって売上が伸びず、不景気この上ない状態。</li> <li>・仕入単価の上昇分を販売単価に転嫁できていない。</li> <li>・気温がなかなか上がらず、日中との温度差が大きすぎ。主力となる盛夏アイテムの動きが非常に鈍く、全体的に客数の減少傾向が目立ち厳しい業況である。</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌を中心に道南、道央に観光客が増加の見通し。道北は寒い日が続き市内のホテルは空き部屋多し。前年比マイナス。6月後半より見込み客増加すべく、リンネ、洗濯は忙しくなりそう。人材不足で当社外国人労働者を10数名採用予定。</li> <li>・外国人観光客が多く来店するようになってきたが対応するのが難しい（料理の内容を説明する時）。メニューを変更しなければならない</li> <li>・夏季に入っただけの観光需要に期待するところは大きい。音楽大行進の中止は残念であった。</li> <li>・昨年と比較し、新規ホテルが3ホテルで揃ったことで、市場の供給過多から需要が分散。前年比90%の進捗状況。</li> <li>・業界全体の課題として、若手技術者が不足しており、技術者の世代交代が進まない。</li> <li>・6月前半は天候も悪く全体的に動きが悪いが、後半に入り多少盛り返してきているが、前半の落ち込みで前年並みに届かず。インバウンドの動きが前年より悪い。</li> <li>・宿泊人数3%減も宿泊単価UPにより宿泊収入前年並みも、蝦夷梅雨？の影響、宴会収入減、営業収入0.7%ダウン。</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI3.4 ポイント悪化、採算 DI3.6 ポイント悪化、仕入単価 DI18.2 ポイント悪化、資金 DI4.6 ポイント悪化、従業員 DI9.1 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 9.1 ポイント悪化となった。業種別では、建築業 13 ポイント回復、総合工事で横ばい、設備その他 43 ポイント悪化となった。8 月以降の仕事が見えてこないとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI11.9 ポイント回復、採算 DI 2.7 ポイント悪化、仕入単価 DI4.8 ポイント回復、資金 DI8.3 ポイント回復、従業員 DI5.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 8.3 ポイント回復となった。業種別では、印刷出版 25 ポイント悪化、食料品、家具木材で横ばい、金属窯業他 29 ポイント回復となった。売上高、採算面が安定して推移しているとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI11.3 ポイント回復、採算 DI5.5 ポイント悪化、仕入単価 DI19.0 ポイント回復、資金 DI2.8 ポイント回復、従業員 DI12.6 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 0.2 ポイント悪化となった。業種別では、繊維 50 ポイント回復、機械鋼材で横ばい、食料品 7 ポイント、その他 5 ポイント悪化となった。少子高齢化が進行し先行きがどうなるか危機感を持っているとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI11.2 ポイント悪化、採算 DI12.2 ポイント悪化、仕入単価 DI1.2 ポイント回復、資金 DI8.9 ポイント悪化、従業員 DI6.6 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 6.6 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 25 ポイント回復、自動車で横ばい、衣料品 33 ポイント、その他 17 ポイント悪化となった。仕入単価の上昇分を販売単価に転嫁できていないとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI23.8 ポイント回復、採算 DI13.4 ポイント回復、仕入単価 DI12.1 ポイント回復、資金 DI4.7 ポイント回復、従業員 DI3.7 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 40.9 ポイント回復となった。業種別では整備業 17 ポイント悪化、運送業横ばい、クリーニング 200 ポイント、ホテル 35 ポイント、その他 25 ポイント、飲食 100 ポイント回復となった。業況は回復となったが「悪化」から「不変」への変化が主因であり実体はほぼ横ばい。6 月前半は天候も悪く全体的に動きが悪いが、後半に入り多少盛り返してきているが、前半の落ち込みで前年並みに届かずという声も寄せられている。</p>